

『現金』ばかりが「しごと」やないぞ！

体力に自信がないから行かんけど、税金で迷惑かけんよう頑張ってる

思いは尊重、でも、「生活保護」税金で迷惑」ではないのですが……

それぞれの頑張りの、その先は……

一時的な現象ながら、センター早朝は人手不足状態、単価も若干上昇傾向。夜間宿所の列も短くなる傾向。

しかし、夜間宿所利用者はゼロにはならないし、炊き出しも無くならない。なぜだろう??

「それぞれにそれぞれの秋」てなもので、いまさら、カマトトぶって「なぜだろう」もないもんだといわれ

そうですが、少し具体的に……

この暑いのに、「オレは1週間、荷物運びに行つた。それなのに、コイツは片付けにも行こうとせん」そう言

われた人の曰く、「そんなんいうたかて、体が持つかいや、カン集めが一杯や」

「カン集め」もさまざまで、遠方まで出かけ、一回出

かけると16時間は作業を続ける人（もちろん途中で休憩や仮眠はとるのでしようが）、センターを中心に

徒歩で回れる範囲で集める人、夜、自転車を決めた範囲を集めて回る人。

現金・飯場以外の「シノギしごと」は、多様。

「税金で迷惑かけんように、体と相談しながら、頑張ってるで」という人もいます。

ところで、突然ながら、「アリとキリギリス」の話を

ご存じですか。アリは暑い夏の間中働いて、餌の少なくなる冬に備

えます。キリギリスは、キリギリギツチョンと夏の間中

鳴き暮らし、冬になると蓄えが無く困る、というお話です。

実際には、キリギリスの寿命は、2ヶ月ぐらいで、その年に卵からかえった成体は、全て11月頃に死んでしま

うそうです。ですから、「アリとキリギリス」の話は、それなりの生を終えるキリギリスを怠け者扱いにする

失礼な話だと、怒っている人もいます。

釜ヶ崎の夏は、仕事もあり、アルミ缶も沢山出て、ア

リさんのごとく、多くの人が収入を得るために体の動かし甲斐のある時期ですが、その収入は、将来のために多くを蓄えられるほどのものではありません。

ます。

人はギリギリと違って、2ヶ月という短期ではない、長い寿命を持っています。釜ヶ崎の仕事の具合に合わせて、死んだり、生き返ったりすることはできません。

人それぞれ、田舎に対する配慮や事情、生活保護制度に対する考え方など、様々にあるでしょうが、アリヤキリギリスよりも長い寿命を持つ「人」は、1年先の自分の生活を想像して、今の自分の行動を決めることが求められます。

生活保護制度の活用は、他人が納めた税金をかすめ取るようなものだから、できない、という考えはよくわかります。国・自治体あげて財政赤字、さも生活保護の増が社会の迷惑といわんばかりの物言いが横行していますから、余計にそう思い込むことになりがちです。

しかし、度を過ぎた遠慮が、その人の善意とは別に社会に混乱を招く原因となるということもあります。

夜間宿所利用や野宿生活者等の例外的な生活を送る人への対策費は、「他人が納めた税金をかすめ取るようなもの」ともいえます。正規の制度生活保護活用の方が、すっきりします。再再度、考えて見てください。

生活保護は、無差別平等、困窮の事実に基づいて、誰でも（永住権を持つ外国人を含む）活用することが出来ます。65歳以上でなければ、あるいは病気でなければ受けられない、というのはウソです。

大阪市立更生相談所（市更相）は、阪堺線の東側、公衆便所横のガードを東に抜けて、交差点を渡ったところにある建物です。

医療センター（大阪社会医療センター）は、「ある時払いの催促無し」、借用書で受診できる医療機関です。市更相あるいは西成労働福祉センターで診療依頼券をもらってから行く必要があります。

医療センターは、センターの建物外の東側に入り口があります。

「自助努力援助のための手引き書—生活保護は怖くない」（無料）をまだ受け取っていない人は、声を掛けてください。手引き書を読んだ後は、役所で保護申請、不動産屋へ。

※ 居所（アパート・マンション）を確保できていない人については、生活保護申請後の手続きの期間（通常2週間）、生活保護施設で待機することになりました。生活保護申請後に、一時宿泊提供を受け、各施設職員の助言を参考に、住居を探してください。アパート・マンションの探し方については、各施設の職員が手伝ってくれることになりました。

20歳から50歳代前半くらいまでの人は、自立支援センターを活用する道もあります。寝場所・食事を提供し、就職活動を支援する施設です。利用期間は、3ヶ月、事情により6ヶ月です。入所希望者は、大阪市立更生相談所（市更相）で相談を。